

令和5年度（令和4年度事業）

# 教育委員会の事務事業点検評価報告書

令和5年12月

出水市教育委員会



## 1 はじめに

本市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、令和4年度に実施した重点施策のうち5つの事業について点検及び自己評価を実施し、教育事務点検評価会議の委員による外部評価、及び教育委員による最終評価を経て報告書としてまとめましたので、議会へ提出します。

## 2 教育委員会の事務の点検及び評価

### (1) 対象とした施策〔 〕内は担当課

ア 小・中学校給食費助成事業〔教育総務課〕	----- P	3
イ 英語暗唱・弁論大会等〔学校教育課〕	----- P	5
ウ 出水ふるさと学寮〔生涯学習課〕	----- P	7
エ 校務用パソコン等更新事業及び校務支援システム導入事業〔出水商業高校〕	--P	9
オ 四季の自然まつり〔青年の家〕	----- P	11

### (2) 評価の方法

#### ア 担当課自己評価（一次評価）

事業実施状況やコスト等に基づき、担当課として、「社会適応性」、「経済性・効率性」、「目標達成度」の3つの観点から自己評価を行い、今後の方向性・改善点案等を明示しました。

#### イ 出水市教育事務点検評価会議委員による外部評価

出水市教育事務点検評価会議を開催し、担当課のヒアリングから得られた情報に基づき、出水市教育事務点検評価会議委員5人から外部評価をいただき、その意見を集約し、掲載しました。

#### ウ 教育委員会総合評価

担当課の自己評価と出水市教育事務点検評価会議委員による外部評価に基づき、教育委員会総合評価を行いました。

【資料1】 出水市教育事務点検評価会議委員

氏 名	所属及び職名等
川原 慎太郎	出水市PTA連絡協議会：理事
肱岡 重幸	出水市文化協会：会長
橋野 勝利	出水地区高等学校・特別支援学校長会 ：会長 出水高等学校長
吉國 幸宏	出水市校長協会 会長：東出水小学校長
永野 裕子	元社会教育指導員

【資料2】 分析・検証結果を元にした方針のランク

	【総合評価】	【今後の方向性】
A	必要かつ十分にできている。 必然性・妥当性が十分にある。 必要かつ十分な効果・成果がある。	事業拡大を検討 現行のまま継続
B	概ねできている。必然性・妥当性が高い。 一定の効果・成果がある。 一部見直しが図れば、なお良い。	現行のまま継続 改善して継続
C	必然性・妥当性、効果・成果等、最低の水準 は満たせているが、見直すべき部分も相当あ る。	改善して継続 統合・縮小を検討
D	課題が相当あり、見直しが必要である。	統合・縮小を検討 廃止又は休止を検討

令和5年度（令和4年度事業）事務事業点検評価シート

1 基本事項

担当課： 教育総務課

施策名（重点）	教育費支援制度の充実											
細施策名（努力点）	義務教育段階の経済的支援											
主な事業名	小・中学校給食費助成事業											
目的（視点）	コロナ禍において、物価高騰等に直面する保護者の負担軽減を図り、子育てしやすい環境を整備する。											
総合計画上の位置付け	基本方針	学校教育の充実										
	施策	教育費支援制度の充実										
	細施策	教育費支援制度の充実										
予算科目名・科目コード	学校給食費助成事業費 小学校分	1	0	0	7	0	4	0	0	7	0	1
	学校給食費助成事業費 中学校分	1	0	0	7	0	4	0	0	7	0	2

2 令和4年度の事業実施状況【計画・手段・実績等】

事業名	計画	実施状況・実績等
小・中学校給食費助成事業	<p><b>【事業概要】</b> 学校給食費における保護者負担を軽減するため、第1子及び第2子に対して、児童生徒一人につき月額1,000円、第3子以降は全額を補助する。</p> <p><b>【手段】</b> 学校給食費を負担した保護者に対し、学期末（12月・3月）に補助金額を確定払い</p> <p><b>【特記事項】</b> 令和4年度第4号補正予算（6月議会）で承認された事業であるため、2学期分給食費から適用。 財源として新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当</p>	<p>小学校 14校 2,300人 第1子・第2子 対象数 1,897人 補助額 10,999,200円 第3子以降 対象数 403人 補助額 9,910,589円 補助総額 20,909,789円</p> <p>中学校 7校 1,048人 第1子・第2子 対象数 1,003人 補助額 5,815,200円 第3子以降 対象数 45人 補助額 1,269,180円 補助総額 7,084,380円</p>

3 令和5年度の事業計画

事業名	内容
小・中学校給食費助成事業	<p>物価高騰等に直面する保護者の負担軽減を図り、子育てしやすい環境を整備するため、事業を継続。令和5年度は当初（1学期分給食費）から適用。運用も天引き方式（第1・2子はあらかじめ減額した給食費を請求、第3子は徴収しない）へ変更し、負担をより軽減化する。</p> <p>○予算額（令和5年度4号補正予算（6月議会）後）                      小学校 第1子・第2子 1,875人 第3子以降 409人 補助総額 41,300,000円                      中学校 第1子・第2子 1,079人 第3子以降 46人 補助総額 14,500,000円                      財源として新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当予定（令和5年度第4号補正予算）</p>

4 コスト 単位:千円

区分 年度	事業費					一般財源 ②	計①+②
	特定財源①			計	計		
	国庫支出金	県支出金	起債			その他	
4年度実績	25,000				25,000	2,995	27,995
5年度計画	55,800				55,800	0	55,800

5 令和4年度事業に対する担当課による観点別評価

社会 適応性	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適した事業であるか。等		
	評価	B	理由 全国的に様々な子育て支援策、負担軽減策が講じられており、給食費助成事業もその一つとして市民ニーズがある。また、物価高騰が続いており、社会経済情勢に鑑みても適した事業と言える。
社会 適応性	市が行う必要のある事業であるか。市が事業を廃止・休止した場合、影響が大きいか。等		
	評価	B	理由 市が事業を廃止・休止した場合、保護者に与える影響は大きいですが、国においても学校給食費の無償化が検討されており、本来であれば住む自治体に関係なく全国一律での制度運用が望ましいと思われる。
経済性・ 効率性	コストの縮減又は経済的な支出がなされたか。類似事業との統合は図れないか。受益者負担は適切か。等		
	評価	C	理由 従来から就学援助対象者は全額、特別支援教育就学奨励費対象者は半額が扶助費として助成されている。国のコロナ臨時交付金を活用しており、扶養者数によって支援金額が異なる（1～2子、3子以降）ため、受益者負担は適切と思われる。就学援助認定時期が前年中の収入確定後（6月以降）となることや、不登校や未喫食等の異動に対する調整業務が多く、給付事務含め担当職員の負担（人件費）縮減が課題である。
経済性・ 効率性	事務は計画的・効率的に行われたか。事務改善又は事業実施上の課題の解決を図ることができたか。等		
	評価	C	理由 事務は計画的に行われたが、新規事業のため、運用にあたって異動情報（転出入、未喫食等）の漏れや誤り等、改善が必要な点があった。保護者負担の軽減は計画通り図られ課題解決を図ることができた。
目標達成度	活動指標（目標の水準）は適切だったか。成果を向上させる余地はなかったか。等		
	評価	B	理由 計画していた水準（金額）で保護者の負担を軽減できた。事務の簡素化・効率化で人的コストを軽減させる余地がある。
目標達成度	計画どおりに目的を達成できたか。成果が認められたか。等		
	評価	B	理由 計画どおり、物価高騰の影響を受けている保護者に対し、経済的負担を軽減できた。
備考	なし		

6 今後の方向性・改善案等（担当課による一次評価）

<input type="checkbox"/>	事業拡大を検討	今後の改善案等 左記の理由・ 改善案等	現在は国庫補助を活用して事業を実施している。今後は国の動向を注視しつつ物価高騰が続く社会情勢の中、継続すべき事業と考える。 事業の運用にあたっては、他支援制度との調整や事務の簡素化を図ることで人的コストの軽減等の改善策を検討したい。 なお、5年度は保護者負担の更なる軽減に努め、あらかじめ減額した給食費の徴収を行う（3子以降は徴収しない）他、申請から実績報告まで全ての権限を学校に委任し一括で処理する等の改善策を講じた。
<input type="checkbox"/>	現行のまま継続		
<input checked="" type="checkbox"/>	改善して継続		
<input type="checkbox"/>	統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/>	廃止又は休止を検討		

7 出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言（外部評価）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食における保護者負担を軽減するための事業で、子育て世帯への恩恵が大きく重要な事業である。</li> <li>・令和4年度に開始された事業ということで、対象者や対象金額の把握、申請から給付までの手続きにおける事務負担軽減等の課題があることから、学校現場や関係機関と連携して事業の簡素化・効率化に向けた改善が図られている。</li> <li>・令和4年度、5年度とも国庫補助金を活用しているが、財源についても今後検討が必要である。</li> </ul>
---

8 教育委員会委員による総合評価・担当課自己評価に対する意見（二次評価）

<input type="checkbox"/>	事業拡大を検討	左記の理由 ・附帯意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の負担を軽減する事業であり、今後も継続すべき事業である。</li> <li>・令和4年度途中から開始された新規事業であり、事務負担軽減の観点から改善の余地があるが、事業そのものは継続すべきである。</li> </ul>
<input type="checkbox"/>	現行のまま継続		
<input checked="" type="checkbox"/>	改善して継続		
<input type="checkbox"/>	統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/>	廃止又は休止を検討		

1 基本事項

担当課： 学校教育課

施策名（重点）	外国語教育					
細施策名（努力点）	グローバル化に対応した外国語教育の充実					
主な事業名	英語暗唱・弁論大会等					
目的（視点）	ALT・AEAや海外の学校との交流を通じた生きた外国語教育の充実を図る。					
総合計画上の位置付け	基本方針	学校教育の充実				
	施策	確かさの教育				
	細施策	学習指導の充実				
予算科目名・科目コード	教育研究研修費	10	01	03	002	01
	英語指導助手設置事業費	10	01	03	003	01

2 令和4年度の事業実施状況【計画・手段・実績等】

事業名	計画	実施状況・実績等
英語暗唱・弁論大会	<p>【事業概要】 英語暗唱・弁論大会を通して、英語を使って表現することができるようにする。ALT・AEAや海外の学校との交流を通して生きた英語に触れることができるようにする。</p> <p>【英語暗唱・弁論大会】 1 期日 R4.10.18 2 内容 小学生：劇やプレゼン 中学生：暗唱や弁論</p>	<p>【英語暗唱・弁論大会参加状況】 小学生：74人 中学生：18人 台湾の中学生：2人</p> <p>【ALT・AEAの活用】 小学校：619回 中学校：325回 義務教育学校：43回 高校：39回</p>
ALT・AEA活用	<p>【ALT・AEAの活用】 1 対象 全ての小・中学校、市立高校 2 内容 外国語の授業での活用</p>	<p>【海外の学校との交流】 オンライン交流：54回</p>
海外の学校との交流	<p>【海外の学校との交流】 1 実施状況 市内7小中学校 2 交流先 韓国、台湾、オーストラリアの学校</p>	

3 令和5年度の事業計画

事業名	内容
海外の学校との交流	<p>市内全ての小中学校で、海外の学校との交流（オンライン・対面）を行い、授業で、学んだ英語を実際に使って、試してグローバルな人材の育成を目指す。</p> <p>【交流先予定】 韓国、台湾、ベトナム、マレーシア</p> <p>【内容】 学校紹介、地域紹介、意見交換、体験活動、授業参加等</p>

4 コスト 単位:千円

区分 年度	事業費					一般財源 ②	計①+②
	特定財源①			計	計		
	国庫支出金	県支出金	起債			その他	
4年度実績					0	22,856	22,856
5年度計画					0	24,415	24,415

5 令和4年度事業に対する担当課による観点別評価

社会 適応性	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適した事業であるか。等		評価	B	理由	国際的に活躍できるグローバル人材の育成は必要であり、文部科学省も英語教育改革実施計画を推進するよう公表している。
	市が行う必要のある事業であるか。市が事業を廃止・休止した場合、影響が大きいかな。等		評価	B	理由	グローバル化が加速する社会において、豊かな語学力やコミュニケーション能力を育成するためには欠かせない取組である。
経済性・ 効率性	コストの縮減又は経済的な支出がなされたか。類似事業との統合は図れないか。受益者負担は適切か。等		評価	B	理由	経済的な支出については、ALT、AEAの活用状況や外国語に触れる取組状況からしても妥当だと見える。
	事務は計画的・効率的に行われたか。事務改善又は事業実施上の課題の解決を図ることができたか。等		評価	B	理由	令和4年から本格的にスタートした取組であったため、海外の学校との連絡調整が難しい面もあったが、7校54回実施できた。今後は全ての学校で、海外との交流を実施していく。
目標達成度	活動指標（目標の水準）は適切だったか。成果を向上させる余地はなかったか。等		評価	B	理由	令和4年度は、オンラインでの交流について準備が整った学校から実施していくこととしていた。令和5年度においては、ICTを活用した学習や外国語の学習も含め、国際交流の取り組みも一層活発になっており、全ての学校でオンラインでの交流を進めていくことが可能である。
	計画どおりに目的を達成できたか。成果が認められたか。等		評価	B	理由	交流を重ねるごとに、児童生徒の意欲や自信が向上し、表情が豊かになり、ジェスチャーなども交え、既習の英語を駆使しながら主体的に繋がろうとする姿が見られた。また、外国語をもっと学びたい、様々な国の人ともっと交流がもちたいなどの感想も寄せられた。
備考						

6 今後の方向性・改善案等（担当課による一次評価）

<input type="checkbox"/> 事業拡大を検討 <input type="checkbox"/> 現行のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 統合・縮小を検討 <input type="checkbox"/> 廃止又は休止を検討	<b>今後の改善案等</b> <b>左記の理由</b>	全ての学校において、交流を進めていく。また、オンライン交流だけでなく、対面での交流についても検討していく。
---	--------------------------------	---

7 出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言（外部評価）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・語学力はもちろんだが、外国へ行っても大丈夫と思えるだけの「自信」や「自己肯定感」を獲得するため、オンラインでも「海外と交流した経験」は貴重な財産となる。また、一度きりのイベントで終わらぬよう次の学習への繋ぎも重要になる。英語弁論暗唱大会もそうだが、参加者以外にも効果が波及するよう、英検合格者数等、事業効果の可視化を検討できないか。</li> <li>・オンラインだけでなく対面での海外交流を検討しているようだが、保護者の経済的な事情であきらめることがないよう、一部助成を検討して欲しい。</li> <li>・一方で、派遣は費用が高額で一部の対象者となることから、多くの子どもが交流の機会が得られるよう、オンライン授業の機会を増やす、県立高校で行っているイングリッシュカフェ（軽食を楽しみながらALT等とフリーテーマで会話）のような事業を導入する方が現実的ではないか。</li> </ul>
---

8 教育委員会委員による総合評価・担当課自己評価に対する意見（二次評価）

<input checked="" type="checkbox"/> 事業拡大を検討 <input type="checkbox"/> 現行のまま継続 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 統合・縮小を検討 <input type="checkbox"/> 廃止又は休止を検討	<b>左記の理由</b> <b>・附帯意見等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル人材を育成するため、「海外と交流した経験」をより多くの児童・生徒に経験してもらい、自信や自己肯定感の獲得に繋げて欲しい。</li> <li>・オンライン授業や、可能であれば対面交流も検討する等、事業の拡大を検討して欲しい。</li> </ul>
---	-------------------------------	---

1 基本事項

担当課： 生涯学習課

施策名（重点）	青少年教育の充実					
細施策名（努力点）	「郷土に学び・育む青少年を育てる運動」の充実					
主な事業名	出水ふるさと学寮					
目的（視点）	青少年が親元を離れ、異年齢集団での生活活動や体験活動を通し、基本的な生活習慣や自立心を身につけ、社会性・自主性を磨き、人と人とのつながりを大切にする心を養うとともに、郷土愛の醸成につなげる。					
総合計画上の位置付け	基本方針	社会教育の充実				
	施策	青少年教育の充実				
	細施策	青少年教育の充実				
予算科目名・科目コード	出水ふるさと学寮事業費	10	06	01	013	02

2 令和4年度の事業実施状況【計画・手段・実績等】

事業名	計画	実施状況・実績等
出水ふるさと学寮事業	<p>【事業概要】 青少年が親元を離れ、青年の家に宿泊しながら通学し、異年齢集団で生活体験や自然体験を行う。年2回開催。</p> <p>【第1回】 1 期間、対象 3泊4日 小学5年生から中学2年生 2 生活体験 洗濯、掃除 3 体験活動 天体観測、学習タイム「SDGsについて」、野外炊飯、レクリエーション</p> <p>【第2回】 1 期間、対象 2泊3日 小学4年生から中学3年生 2 生活体験 洗濯、掃除 3 体験活動 天体観測、学習タイム「ラムサールについて」、ラムサール条約湿地体験活動、野外調理、レクリエーション</p>	<p>【第1回】 13人申込中12人参加 参加者満足度 90%以上達成</p> <p>【第2回】 22人申込中21人参加 参加者満足度 90%以上達成</p>

3 令和5年度の事業計画

事業名	内容
出水ふるさと学寮事業	<p>市内の小学4年生～中学3年生を対象に3泊4日の2回を各定員32人で参加者を募集し、青年の家において子ども自身で掃除、洗濯等の日常生活を送りながら通学し、体験活動などを実施する。</p> <p>【生活体験】 朝食準備、洗濯、掃除</p> <p>【体験活動】 天体観測、和菓子作り体験、学習タイム「出水の魅力について」、レクリエーション</p>

4 コスト 単位:千円

区分 年度	事業費					一般財源 ②	計①+②
	特定財源①			計	その他		
	国庫支出金	県支出金	起債				
4年度実績				138	138	596	734
5年度計画				168	168	489	657

5 令和4年度事業に対する担当課による観点別評価

社会 適応性	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適した事業であるか。等		
	評価	B	理由 核家族化が進み、きょうだいの人数も減る中、異世代間と交流しながら集団活動を行う本事業は市民ニーズが高く、現在の社会経済情勢の現状に適していると言える。
社会 適応性	市が行う必要のある事業であるか。市が事業を廃止・休止した場合、影響が大きいか。等		
	評価	B	理由 採算の見込まれる事業ではなく、公益性が求められるため、行政が行う必要がある(市には限らない。) 異年齢集団での日常生活体験は、青少年教育の充実にとって必要な事業と言える。
経済性・ 効率性	コストの縮減又は経済的な支出がなされたか。類似事業との統合は図れないか。受益者負担は適切か。等		
	評価	B	理由 子どもの安全面を優先しているためコストの削減は難しい。また、参加者から徴収している実費相当分(食費、クリーニング代など)の7割負担は適切な受益者負担であると思われる。
経済性・ 効率性	事務は計画的・効率的に行われたか。事務改善又は事業実施上の課題の解決を図ることができたか。等		
	評価	C	理由 事業は計画的に実施されたが、事業にかかる人的コストの解消が課題であり、効率的な事業運営へ改善の余地がある。
目標達成度	活動指標(目標の水準)は適切だったか。成果を向上させる余地はなかったか。等		
	評価	B	理由 計画していた水準(満足度)を達成できた。成果をより向上させるため活動回数を増やすことも考えられるが、同時に事務の簡素化・効率化等で人的コストの軽減も併せて検討する余地がある。
目標達成度	計画どおりに目的を達成できたか。成果が認められたか。等		
	評価	B	理由 計画どおり、事業を実施することができ、参加者からも一定の満足度を得ることができた。(満足度調査結果95.0%)
備考			

6 今後の方向性・改善案等(担当課による一次評価)

<input type="checkbox"/> 事業拡大を検討 <input type="checkbox"/> 現行のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 統合・縮小を検討 <input type="checkbox"/> 廃止又は休止を検討	今後の理由・改善案等	平日の宿泊を伴うため、計画の段階で、職員負担を軽減しつつも、参加者にとって効果的な事業の実施ができるような計画をたてる必要があると言える。
---	------------	---

7 出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言(外部評価)

<p>・職員負担を軽減するため、市民ボランティアを活用することは手段の一つとなり得るが、子どもの前に立つことが苦手な方もいるため、この事業の実施にあたっては、学校籍の指導員が配置が欠かせない。職員にとっても学ぶことが多い。</p> <p>・参加者アンケートにおいて、95%が満足したとの結果であるが、参加した子どもだけでなく、子どもを参加させた保護者に対するアンケートも行って欲しい。子どもが親に話す生の声だけでなく、参加させた保護者の意図も把握できるのではないかと。</p>
--

8 教育委員会委員による総合評価・担当課自己評価に対する意見(二次評価)

<input type="checkbox"/> 事業拡大を検討 <input type="checkbox"/> 現行のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 統合・縮小を検討 <input type="checkbox"/> 廃止又は休止を検討	・左記の理由・附帯意見等	<p>・参加者の満足度が非常に高く、子どもだけでなく参加させる保護者のニーズも高い有用な事業である。</p> <p>・スマホ依存等が社会問題となる中、自然体験や集団行動ができ、今の子どもたちにぜひ参加してもらいたい事業であることから、広報活動をしっかり行い、積極的な参加を促して欲しい。</p> <p>・コスト縮減に向けた改善策は引き続き検討し、効率的な事業運営を進めて欲しい。</p>
---	--------------	---

令和5年度（令和4年度事業）事務事業点検評価シート

1 基本事項

担当課： 出水商業高校

施策名（重点）	地域に根差した学校教育				
細施策名（努力点）	高校教育の充実				
主な事業名	校務用パソコン等更新事業及び校務支援システム導入事業				
目的（視点）	教員が使用するパソコンを更新することで、セキュリティの強化と情報教育の充実を図る。 校務支援システムを導入することで、教職員の事務の効率化や負担軽減を図る。				
総合計画上の位置付け	基本方針	学校教育の充実			
	施策	地域に根差した学校教育			
	細施策	高校教育の充実			
予算科目名・科目コード	高等学校教育設備整備事業費	10	04	02	00401

2 令和4年度の事業実施状況【計画・手段・実績等】

事業名	計画	実施状況・実績等
校務用パソコン等更新事業	<p>【事業概要】 平成27年に購入した教員が使用する校務用パソコン（Windows 8.1）をWindows 10に更新し、マイクロソフトのサポート期間内の安全なICT環境で、情報教育の充実を図る。 また、併せてオフィスソフトも更新し、校務の効率化を図る。</p> <p>【手段】 DX推進課や教育総務課のパソコン更新と併せて購入する。</p> <p>【特記事項】 現在使用しているWindows 8.1は、令和5年1月10日に延長サポート終了。また、オフィス2013は、令和5年4月11日に延長サポート終了。 財源として新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当。</p>	<p>令和4年6月24日納品 NEC製ノートパソコン35台 3,416,468円 (うち交付金1,011,274円) プリンタ7台他 1,089,000円</p>
校務支援システム導入事業	<p>【事業概要】 教員の事務負担の軽減を図る。 鹿児島県教育委員会の学校における業務改善アクションプランに基づき、県立高校では令和3年4月から校務支援システムを導入しており、同様のシステムを導入する。</p> <p>【手段】 開発業者との委託契約により導入</p> <p>【特記事項】 校務用パソコン等更新事業と同様に、財源として新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当。</p>	<p>令和4年9月から試行運用 10月から本格運用 960,300円 (うち交付金316,899円)</p>

3 令和5年度の事業計画

事業名	内容
校務支援システム使用料	<p>令和4年度に校務支援システムを導入した。令和5年度以降も教職員の事務の効率化、負担軽減を図るため事業を継続する。</p> <p>令和5年度事業費 1,281千円(使用料)</p>

4 コスト 単位:千円

区分 年度	事業費					一般財源 ②	計①+②
	特定財源①			計	其他		
	国庫支出金	県支出金	起債				
4年度実績	1,328				1,328	4,138	5,466
5年度計画					0	1,281	1,281

5 令和4年度事業に対する担当課による観点別評価

社会 適応性	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適した事業であるか。等	評価	A	理由	コロナ禍の学校現場は通常業務に加え、感染症対策や新しい生活様式等の対応により教職員の業務も増大しているため、校務用パソコンの更新及び校務支援システム導入は、教職員の事務の効率化や負担軽減に繋がり、学校現場のニーズに適した事業である。
	市が行う必要のある事業であるか。市が事業を廃止・休止した場合、影響が大きいかな。等	評価	B	理由	校務用パソコン等の更新は、校務及び情報教育の推進を行う上で不可欠なものであり、コンピューターウイルスの脅威に晒されず、効率的に校務を行う環境づくりは、市が行う必要のある事業である。
経済性・ 効率性	コストの縮減又は経済的な支出がなされたか。類似事業との統合は図れないか。受益者負担は適切か。等	評価	A	理由	校務用パソコン更新は、DX推進課や教育総務課と合算した台数で購入手続きを行ったため、通常よりコストを縮減することができた。
	事務は計画的・効率的に行われたか。事務改善又は事業実施上の課題の解決を図ることができたか。等	評価	A	理由	校務用パソコン更新は、DX推進課や教育総務課と連携して交付金申請、購入手続きを行ったことで、計画的・効率的に更新することができた。 また、校務支援システム導入により、県立高校と同じ環境に改善でき、異動時の負担軽減にもつながる。
目標達成度	活動指標（目標の水準）は適切だったか。成果を向上させる余地はなかったか。等	評価	B	理由	計画していた仕様（スペック）で、パソコンを更新することができた。今後はさらに効率的・効果的な運用を検討したい。
	計画どおりに目的を達成できたか。成果が認められたか。等	評価	B	理由	計画どおり校務用パソコンを更新し、ハード面でセキュリティ向上や校務の円滑化、情報教育の充実を図ることができた。今後は学習支援等ソフト面も充実させることで、さらに情報教育の推進を図りたい。
備考					

6 今後の方向性・改善案等（担当課による一次評価）

<input type="checkbox"/>	事業拡大を検討	今後の改善案等 左記の理由・ 左記の理由・ 左記の理由・ 左記の理由・ 左記の理由・	校務用パソコン等の更新及び校務支援システムは、セキュリティーの強化と業務の効率化により教職員の負担軽減となり、その分情報教育に力を注ぐことができるため、魅力ある学校づくりに繋がる。今後も校務用パソコンは適切な時期に更新し、校務支援システムは継続すべき事業と考える。
<input checked="" type="checkbox"/>	現行のまま継続		
<input type="checkbox"/>	改善して継続		
<input type="checkbox"/>	統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/>	廃止又は休止を検討		

7 出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言（外部評価）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の業務の効率化について、勤務時間を何時間削減したとか、何%効率化できたとか数値的なものがあつた方が分かりやすい。</li> <li>・今回の事業は教職員用のPC及び校務支援システムに係るものであり、これによって情報教育の推進をどのように図っていくか、授業で使用するタブレットとの連携も含め今後検討内容の具体化が求められる。</li> </ul>
---

8 教育委員会委員による総合評価・担当課自己評価に対する意見（二次評価）

<input type="checkbox"/>	事業拡大を検討	左記の理由 ・校務支援システムを導入したことで、勤務時間をどの程度削減化できたか可視化する必要がある。 ・市民ニーズについては、実際に使用する教員や職員だけでなく、業務が効率化されたことで、その分どれだけ情報教育の充実が図れ、生徒や学校を設置する市（市民）に恩恵をもたらすことができたか、といった視点をもって判断して欲しい。
<input checked="" type="checkbox"/>	現行のまま継続	
<input type="checkbox"/>	改善して継続	
<input type="checkbox"/>	統合・縮小を検討	
<input type="checkbox"/>	廃止又は休止を検討	

1 基本事項

担当課： 青年の家

施策名（重点）	研修活動の内容・方法の充実					
細施策名（努力点）	郷土「出水」のよさを生かした特色ある主催事業や研修プログラムの展開					
主な事業名	四季の自然まつり					
目的（視点）	自然に恵まれた青年の家及び周辺の環境を生かし、家族や友達、参加者同士のふれあいを深めながら、自然を活用した様々な活動（野外活動・創作活動等）を通して、自然に触れ、自然で遊び、自然を学ぶことにより、郷土のよさを知り、郷土を愛する心を培う。					
総合計画上の位置付け	基本方針	社会教育の充実				
	施策	青少年教育の充実				
	細施策	青少年教育の充実				
予算科目名・科目コード	主催事業（自然まつり）	10	06	05	003	01

2 令和4年度の事業実施状況【計画・手段・実績等】

事業名	計画	実施状況・実績等																				
四季の自然まつり	① 春の自然まつり（第20回 チャレンジ・ラリー） <table border="1"> <tr> <td>期日</td> <td colspan="2">4月29日（金） 昭和の日</td> </tr> <tr> <td>目的</td> <td colspan="2">オリエンテーリング形式で各種ゲームを家族や友人と楽しむ。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">目標</td> <td>参加者</td> <td>40組 200人</td> </tr> <tr> <td>ボランティア</td> <td>20人</td> </tr> </table>	期日	4月29日（金） 昭和の日		目的	オリエンテーリング形式で各種ゲームを家族や友人と楽しむ。		目標	参加者	40組 200人	ボランティア	20人	※毎年恒例の野田女子高校が企画した体験コーナーでは、「元気づけてくれるので、とても楽しい」と参加者から好評である。 <table border="1"> <tr> <td>応募者数</td> <td>41組</td> <td>155</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>29組</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>ボランティア</td> <td colspan="2">35人（高校生728人・市77人・補助員11人）</td> </tr> </table>	応募者数	41組	155	参加者数	29組	104	ボランティア	35人（高校生728人・市77人・補助員11人）	
	期日	4月29日（金） 昭和の日																				
	目的	オリエンテーリング形式で各種ゲームを家族や友人と楽しむ。																				
	目標	参加者	40組 200人																			
ボランティア		20人																				
応募者数	41組	155																				
参加者数	29組	104																				
ボランティア	35人（高校生728人・市77人・補助員11人）																					
② 夏の自然まつり（ファミリーキャンプ） <table border="1"> <tr> <td>期日</td> <td colspan="2">7月17日（日）・8月20日（土）～21日（日）</td> </tr> <tr> <td>目的</td> <td colspan="2">子どものいる家族を対象に、野外炊飯を親子で行うことにより家族の絆を深める。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">目標</td> <td>参加者</td> <td>先着 14組 1day7組21人 2day7組28人 合計49人</td> </tr> </table>	期日	7月17日（日）・8月20日（土）～21日（日）		目的	子どものいる家族を対象に、野外炊飯を親子で行うことにより家族の絆を深める。		目標	参加者	先着 14組 1day7組21人 2day7組28人 合計49人	※野田女子高校生徒によるゲーム、パネルシアターを行った。 <table border="1"> <tr> <td>1day</td> <td>6組</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>2day</td> <td>6組</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12組</td> <td>46人</td> </tr> </table>	1day	6組	25人	2day	6組	21人	合計	12組	46人			
期日	7月17日（日）・8月20日（土）～21日（日）																					
目的	子どものいる家族を対象に、野外炊飯を親子で行うことにより家族の絆を深める。																					
目標	参加者	先着 14組 1day7組21人 2day7組28人 合計49人																				
	1day	6組	25人																			
2day	6組	21人																				
合計	12組	46人																				
③ 秋の自然まつり（第21回 青年の家フェスティバル） <table border="1"> <tr> <td>期日</td> <td colspan="2">10月16日（日）</td> </tr> <tr> <td>目的</td> <td colspan="2">家族や友達と一緒に青年の家でできるクラフト活動を楽しむ。</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>参加者</td> <td>300人</td> </tr> </table>	期日	10月16日（日）		目的	家族や友達と一緒に青年の家でできるクラフト活動を楽しむ。		目標	参加者	300人	※令和元年度からコロナにより県内8施設からの参加は無く、本所のみでのクラフト活動の体験となっていた。 <table border="1"> <tr> <td>参加者数</td> <td>129人</td> </tr> <tr> <td>作成数</td> <td>170個</td> </tr> </table>	参加者数	129人	作成数	170個								
期日	10月16日（日）																					
目的	家族や友達と一緒に青年の家でできるクラフト活動を楽しむ。																					
目標	参加者	300人																				
参加者数	129人																					
作成数	170個																					
④ 冬の自然まつり（正月&クリスマスを手作りで） <table border="1"> <tr> <td>期日</td> <td colspan="2">12月18日（日）</td> </tr> <tr> <td>目的</td> <td colspan="2">自然素材を生かして、正月やクリスマスの飾りを手作りする。</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>参加者</td> <td>180人</td> </tr> </table>	期日	12月18日（日）		目的	自然素材を生かして、正月やクリスマスの飾りを手作りする。		目標	参加者	180人	※ミニ門松、洋風リース、和風リース、しめなわ、（各コース製作個数限定）作りを実施した。 <table border="1"> <tr> <td>参加者数</td> <td>134人</td> </tr> <tr> <td>作成数</td> <td>59個</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>自然まつり合計</td> <td>413人</td> </tr> </table>	参加者数	134人	作成数	59個	自然まつり合計	413人						
期日	12月18日（日）																					
目的	自然素材を生かして、正月やクリスマスの飾りを手作りする。																					
目標	参加者	180人																				
参加者数	134人																					
作成数	59個																					
自然まつり合計	413人																					

3 令和5年度の事業計画

事業名	内容
四季の自然まつり	令和4年度の事業を継続する。高校生ボランティアや市民ボランティアを積極的に活用することにより、参加者への支援を更に手厚くし、参加者の満足度を高める。また、市内各高校との連携を強化し、各自然まつりの中に高校生が企画・立案した体験コーナーの設置や展示コーナーを設定することにより、事業の充実を図るとともに、青少年の育成の充実を図る。さらに、各種関係機関との連携を密に図り、魅力的な事業内容となるように企画運営の工夫に努める。SDGsとの関連付けを行う。

4 コスト 単位:千円

区分 年度	事業費					一般財源 ②	計①+②
	特定財源①			計	其他		
	国庫支出金	県支出金	起債				
4年度実績				104	104	113	217
5年度計画				113	113	137	250

5 令和4年度事業に対する担当課による観点別評価

社会適応性	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適した事業であるか。等	評価	A	理由	四季の自然環境や自然素材を生かした本事業は、趣向を凝らし充実した内容となっている。また、参加者アンケートからも90%の参加者が「とても満足」、「満足」の回答を得ており、家族及び友達とのふれあいを深めるいい機会であると考えている。限りある資源を大切にしたり、自然を大切にするなど、持続可能な社会の実現に向けたSDGsへの取組の意識付けを行っている。
	市が行う必要のある事業であるか。市が事業を廃止・休止した場合、影響が大きいかな。	評価	A	理由	出水のよさを知り、郷土を愛する子どもの育成は、将来の出水市にとっても欠かせないことである。また、高校生を事業の中に参画させることにより、将来の地域作りを担う人材育成を図っている点から意義深い事業と考える。また、家族のふれあいの機会を提供することは、家庭教育の更なる充実を図る点から効果的だと考えられる。総合的に学校教育を補完する施設の事業として必要であると考えられる。
経済性・効率性	コストの縮減又は経済的な支出がなされたか。類似事業との統合は図れないか。受益者負担は適切かな。	評価	B	理由	青年の家の特徴（自然・環境等）を生かしたり、季節感を味わったりする事業であり、他事業とは統合できないものであると考えている。実費相当分の受益者負担は妥当であると考えているが、人件費の面において市民ボランティアを活用したコスト縮減等も考えられる。
	事務は計画的・効率的に行われたか。事務改善又は事業実施上の課題の解決を図ることができたか。等	評価	B	理由	毎年、ボランティアスタッフや参加者のアンケート等を通し、課題解決に繋げている。参加申し込みについては、電話混雑等による影響を回避するため、電子申請での申し込みとした。また、今後もアンケート等の意見を参考に、よりよい事業とするため改善していきたい。
目標達成度	活動指標（目標の水準）は適切だったか。成果を向上させる余地はなかったか。等	評価	B	理由	毎回参加者数は、目標の80%から90%である。活動指標は適切と考えるが、事業によっては需要数に対して十分な供給を確保できないものもあった。できるだけ多くの方が参加できるように検討することで成果を向上したい。また、市公式ラインやインスタグラム等効果的な広報活動を行うことで、毎回目標人数は確保していきたい。
	計画どおりに目的を達成できたか。成果が認められたか。等	評価	A	理由	参加者アンケートの満足度からも成果があったと思われる。リピーターはもちろん、新規の参加者も多く、今後さらに、参加者の意見・要望を取り入れながら、魅力ある事業にしていきたい。また、社会教育関係機関・団体とも連携を図り、日常的な広報活動を推進する。
備考					

6 今後の方向性・改善案等（担当課による一次評価）

<input type="checkbox"/>	事業拡大を検討	今後の改善案等 左記の理由	本施設や周辺の恵まれた自然環境を生かした野外活動やクラフト活動等の体験活動の提供を行う本事業は、他のイベント等では体験できないため今後も継続していきたい。 また、参加者の多くからは、満足しているとの意見をいただいているが、さらによりよい事業とするために常に内容の見直し・充実を図りながら、青少年教育・家庭教育・地域づくりへの寄与に努めていきたい。
<input checked="" type="checkbox"/>	現行のまま継続		
<input type="checkbox"/>	改善して継続		
<input type="checkbox"/>	統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/>	廃止又は休止を検討		

7 出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言（外部評価）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は、子どもにとっても保護者にとっても教育効果の高い素晴らしい事業である。また、事業に高校生を「参加」ではなく「参画」させているところが重要である。</li> <li>・市民ボランティアが高齢化してきており、新たな方を発掘することが課題である。</li> <li>・広報について、現在のチラシ配布や広報紙、ホームページや防災無線だけでなく、参加された方の感想やエピソードを紹介してイベントを身近に感じるような工夫を凝らすことで、参加意欲を高めてはどうか。</li> </ul>
--

8 教育委員会委員による総合評価・担当課自己評価に対する意見（二次評価）

<input type="checkbox"/>	事業拡大を検討	左記の理由 ・ 附帯意見等	四季の自然環境や自然素材を生かした本事業は、教育効果の高い素晴らしい事業である。 ・ 参加者の意見も取り入れて、事業内容も毎年検討し、内容の見直しを随時行い充実化を図っており、継続すべきと考える。
<input checked="" type="checkbox"/>	現行のまま継続		
<input type="checkbox"/>	改善して継続		
<input type="checkbox"/>	統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/>	廃止又は休止を検討		